

中学生を対象としたベースボール型球技の体育授業に関する研究

出塁進塁状況記録シートの活用とトスバッティング野球盤ゲームを取り入れた授業単元の成果

田淵 風雅（京都教育大学大学院）

1. 目的

本研究では、中学校ベースボール型球技の体育授業で活用するための攻撃時の出塁進塁状況を簡便に記録するシートを、記入方法を解説する動画を含めて実用し、バッティング技能の発揮に特化したトスバッティング野球盤方式のゲーム教材を考案するとともに、それらを組み込んだ授業単元を実践したときの成果や課題について検討することを目的とした。

2. 出塁進塁状況記録シートとトスバッティング野球盤の概要

自身の卒業研究において作製した本塁に帰塁した時以外の場合でも出塁数や進塁数を記録・得点化できる出塁進塁状況記録シートをさらに改良し、記入方法解説動画を作製した上で、2021年11月、京都市内中学校2・3年生男女135名に実施した全10時間のベースボール型球技の授業で活用したところ、全349打席中281打席（80.5%）が正確に記入でき、直接確率計算両側検定の結果、有意に多かったことから（ $p=0.000$ ）、中学校ベースボール型体育授業で十分活用できるものと考えられた。

攻守の攻防を重視する先行研究が多いところ、本研究では、ピッチャーの投球術や野手の好守備等の要因によらずまずは学習者のバッティング技能発揮を保証することが重要であるとの立場から、エポック社が販売し続けているボード型ゲーム「野球盤」を参考に、味方がトスするボールをフィールドに打ち返し、打球の飛距離や方向等の状況によってランナーが随時進塁していくという「トスバッティング野球盤ゲーム」を、中学校のグラウンドでも実施できるように、用具や場の設定等を含め考案した。

3. 出塁進塁状況記録シートの活用とトスバッティング野球盤ゲームを取り入れた授業単元の成果

2022年5月30日から6月30日にかけて、京都市内中学校2年生男子67名、女子65名を対象に、野球盤を含むすべてのゲーム状況を記録シートに記録させるとともに、単元2時間目と6時間目にトスバッティング野球盤ゲームを取り入れた計6時間のベ

ースボール型球技の授業単元を、男女別で実施した。

単元前後に実施した野球盤ゲームにおいてバッティングパフォーマンスの成果を検討し、野球盤ゲーム終了後に提出させた学習カードの記載内容から、ベースボール型ゲームに関する戦術的な知識学習の成果を検討した。バッティングの分析対象者は男子60名、女子62名であり、戦術的知識学習の分析対象者は男子45名、女子52名であった。

三振はもともとあまり多くなかったが、男女とも単元後に有意に減少した（男子三振 $7 \rightarrow 2$, $p=0.0815$; 女子三振 $10 \rightarrow 3$, $p=0.0377$, 直接確率算, 片側検定）。

三振以外の打席は、野球経験者2名によるABC三段階のミート評価を実施し、AまたはB評価の打席数と、C評価または三振の打席数を、単元前後で比較した（直接確率計算, 両側検定, 以下同じ）。男子は単元前後で差はなく、単元前後をコミにして計算すると、AまたはB評価の数がC評価または三振の数よりも有意に多く（ $p=0.0000$ ）、男子においては、単元前からミートできている生徒が多かったと考えられる。女子は単元後にCまたは三振の数が減少し、AまたはB評価が増加した（ $p=0.0245$ ）。

打球の方向と進塁アシストについて、特に女子では単元後に右方向の打球が有意に増え（ $p=0.0121$ ）進塁アシストも増加していた（ $p=0.0088$ ）。一方男子は、単元前後に有意な差は認められず、単元前後をコミにすると、右方向への打球は有意に少なく（ $p=0.0000$ ）、しかし進塁アシストは有意に多かった（ $p=0.0006$ ）。この結果から、単元の学習を通して女子は右方向への打球で確実に進塁アシストしようとしていたことに対し、男子はヒットや長打ねらいで進塁アシストと自身の出塁を両立しようとする傾向が考えられた。

学習カードの記載内容について、男女とも単元前は「心理面」や「構えや動作」に触れて記載する生徒が多かったが、単元後は「出塁」、「進塁優先」や「進塁アシスト」に触れて記載する生徒が有意に増加し、単元の戦術的な知識学習の成果として、ヒットだけでなく、ランナーを進塁させることの重要性について理解が進んだことが示唆された。